



動産ヲ引當トシテ金ヲ貸與ス法方  
バンクユウロペアン 歌羅巴バンク  
ニテ動産及不  
ノ義我

10





414  
A1124



及ニ不動産ヲ引當トシテ金ヲ貸ス法方  
ニクユウロペアン歐羅巴バンクニテ不動産

緒言

余商業ヲ為スニ既ニ多年ニシテ永ク事務ニ當  
リ経験ヲ為シタルニ因リ當時ノ經濟法ニハ解  
シ難キノ弊害アルヲ知リ得タリ  
是迄不動産土地家屋倉庫等ヲ云フヲ引當トシテ金ヲ借  
入ル者纔ニ其不動産ノ價ノ半ニ過キサル金

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

大正官



ヲ借入ル、時ハ之ヲ返却スルヲ能ハスレテ必  
其産業ヲ破ルニ至ルハ何等ノ理ニ因ル所タル  
ヤ殆ト解シ難クシテ初ノ程借主其産業ヲ為  
スニ拙キ歟又然ラサレハ無智ノ營利ヲ計ルニ  
回ルヘレト思料セシカ次第ニ之ヲ考究スルニ  
從ヒ頗ル有智ニシテ勉勵ナル借主ト雖モ亦其  
産業ヲ破ルヲ免レサルヲ知レリ之ニ回テ考  
フレハ獨借主ノ過失ニ出ルルノニ非ス當時ノ

貸借ノ法方ニ解シ難キ不良ノ事アリテ借主如  
何ニ産業ヲ勉ムルトモ終ニ其禍患ヲ免レサル  
ニ至ルハキナリ然ルニ其貸借ノ法ノ解シ難キ  
不良ノ事ハ何等ノ事タルヤ余頻リニ之ヲ考究  
シ終ニ其緣由ヲ知レリ因テ余今之ヲ説明セレ  
トス  
元來金ヲ借ルハ遊戯等無益ノ事ノ為ニスル所  
ニ非ス有益ノ事ヲ以テ目的トスル所ナリ然ニ



借主ノ金高ハ元ト已ニ屬スルモノニ非ス人ニ  
屬スルモノナレハ其利息ヲ拂ヒ終ニ其元高ヲ  
返却ヤントスルニハ借主大ニ勉業ニテ利ヲ得  
富ヲ為サ、ルヲ得ス故ニ借ル者ハ勞動ヲ以テ  
其目的ト為ス可シ

然ルニ當今通常金ヲ借ル者ハ不動産ヲ以テ其  
引當ト為スト雖モ其不動産ノ歳入統カニ借金  
ノ利息ノ半ニ足ラス故ニ如何ニ勉業スルトモ

其勞動ヨリ得ル所ノ高ト不動産ノ歳入高トヲ  
合シテ猶其利息ヲ拂フニ充テ用フルニ足ラサ  
レハ已ムヲ得スシテ拂ヒ残りノ利息ヲ元金  
ニ合シテ次第ニ其借金ノ高ヲ増シ又然ラサレ  
ハ其利息ヲ拂ハレカ為メ更ニ他人ヨリ金高ヲ  
借りテ亦借金ノ高ヲ増シ終ニ借金ノ高夥多  
ニ至リテ其産業ヲ破リ分散セサルヲ得ス此弊  
害ハ當時ノ經濟法ニテ除去スルノ策ナレ



又不動産ヲ引當トシテ金ヲ借ル者、其禍害  
ヲ蒙ルニ非ス。動産ヲ引當トシテ金ヲ借ル者モ  
亦之ニ等シク加之。一旦意外不幸アラハ忽チ  
其産業ヲ破ルノ患更ニ甚シトス。○概シテ之ヲ  
論セバ、富ヲ得ルハ労働ニ因リ労働シテ得ル所  
ヲ以テ猶其失フ所ヲ償フニ足ラサレハ如何ニ  
勉勵智財ノ人ト雖モ其産ヲ破ラサルヲ得ス。然  
レモ今金高貸借ノ法方ニテハ人如何ニ労働ス

ルトモ其借金ノ利息ヲ拂ヒ元金ヲ還スヲ能ハ  
ス之レ即チ當時ノ経済法ノ不良ナル所ナリ  
又當時ノ如ク貸金ノ利息多キ時ハ借主之ヲ拂  
ヒ得ルノカナケレハ大ニ商業工作ヲ起スノ道  
ヲ害シ随テ國ノ富ヲ減シ到底人性ノ理ニ戻リ  
借主ハ如何ニ勉勵スルトモ其利ト元トヲ償フ  
ヲ能ハスレテ猶古ノ小説ニ記スル「ナイド」ナ  
ル者底ノナキ樽ニ水ヲ汲入ル、カ如ク頻リニ



借債ヲ免レント欲シテ晝夜勉勵シ竟ニ其所望  
ヲ果サスシテ失望スルニ至ル可シ

讀者深ク考思スレハ忽チ了解シ得ルカ如ク借  
主ノ産業ヲ破ル十ノ九ハ其利息ノ貴キニ因ル  
前文ニ記スル所ニテハ未タ當時ノ經濟法ノ不  
良ナルヲ十分ニ解シ得サレハ今更其弊害ヲ  
舉ケシトス

金ノ借主其金ヲ還ス能ハスシテ竟ニ其産ヲ破  
ル時ハ本人ノ為メ損失アルト貸主ノ為メ損失  
アルトハ言ヲ待タズ畢竟全國人民ノ為メノ損  
失ナリコレ一人ノ正實ニ得ル所ノ利ハ即チ全  
國ノ利一人ノ損ハ全國ノ損ナリト云フ確言ニ  
因ル然ルニ人苟クモ利ヲ得ルハ勞動シテ之レ  
ヲ得ルニ在テ占有掠奪シテ之ヲ得ルニ在ラサ  
レハ借金ノ利息ハ人ノ勞動ノカト平均セサル  
ヲ得ス若シ其平均ヲ失ヒ勞動ニテ得ル所ヲ以



利息ヲ充ルニ足ラサレハ所謂無益ノ労働ニ過  
キスシテ之一人ノ損失ニ非ス天下ノ損失ナリ  
故ニ當時ノ利息ヲ更ニ減シテ労働ノ力ト平均  
セシムヘシ

此緒言長文ニ過キタルカ如シト雖モ新ニ一確  
説ヲ立ントスルニハ又ス詳ニ其道理ヲ窮メ之  
ヲ不拔ノ基礎ニ置ノ可キカ故ニ敢テ又之ヲ贅  
言ナリトス可カラス

今此緒言ヲ以テ我新法「バンク」ヲ立ルノ基ト為  
シ之ヨリ其バンクノ事ヲ説カントス

バンク取設ノ總論

當時ノ經濟法ニハ此ノ如キノ弊害アルヲ以テ  
余新タニ一介ノバンク法ヲ設ケ其バンクヲ名  
ツケテ動産及ヒ不動産引當ニテ金ヲ貸ス歐羅  
巴バンクト云フ歐羅巴バンクト名ツタル所以  
ハ此バンク法終歐羅巴全州ニ行ハル可シト



信スルニ因ル

余此新法ヲテハ十分ナル引當品ヲ取りタル上  
五分ニ付ノ利息ニテ人ニ金ヲ貸サレバ且  
且此バンクニ財本ノ一部ヲ出シ合ハスル者ハ  
其相當ノ利得ノ分派ヲ得ルニ相違ナクシテ其  
金ヲ失フコトナケレハ此バンク新法極メテ簡便  
ニシテ且大利アリ

此新法バンクニテ金銀貨幣ニ代ヘテ發出セシ

トスル紙幣ハバンクドフランス佛政府ノ紙

幣ヨリ更ニ信據スヘキモノトス其故ハバンク

ドフランスノ紙幣引換ノ為メ備ユル財本ハ密

中ニ貯蔵スル貨幣ノ財料ニ過キスシテ之纒カ

一ヶ所ニ貯フル所ナレハ減盡スルノ恐アレト

キ新法バンクノ紙幣引替ノ財本ハ國中數ヶ所

ニ在ル土地家屋等ヲ以テ主ト為スカ故ニ如何

ナル變事アリトモ一時ニ其財本ヲ失フノ恐レ



ナキニ因ル〇又新法バンクノ紙幣ハ百フラン  
クノ價ノモト雖モ其引當トナス物品ニ付テ  
ノ實價ハ二百フランクナルヲ以テ衆庶此バン  
クノ紙幣ヲ信據スルノ情自カラバンクドフラ  
ンスノ紙幣ヲ信據スルヨリ更ニ厚クシテ忽チ  
其紙幣ヲ通用スルニ習慣ス可シ

固ト金銀貨幣ト雖 物價ヲ秤ルノ一記表ニ過  
キス故ニ當時通用スル十サニチーハ錢ノ如キ

ハ其通用貨幣タルノ印号ヲ除カハ纔カニ些少  
ノ實價アルノミ又紙幣モ價ヲ秤ルノ一記表ニ  
ニシテ其引替ノ引當品ヲ以テ其實價ヲ生スル  
ノ基トス

之ニ因リ余金銀貨幣ト引替ユヘキ紙幣ヲ造リ  
其紙幣ノ引當品ハ即チ動産及ヒ不動産ニシテ此  
紙幣ニハ利息ヲ附ケスシテ自在ニ之ヲ通用セ  
シメバンクドフランズ紙幣ニ均シク其紙幣ヲ



金銀貨ニ引換ニトスル者アラハ直ニ之ヲ引替  
 コヘシ蓋シ此紙幣ニハバンクノ支配人三負ト  
 別段掛リ一負トニテ姓名ヲ手署シテ之ヲ證ス  
 一シ  
 我新法歐羅巴ハバンクノ紙幣ヲ造ル法及ヒ其引  
 當品ヲ取ルノ法ヲ説明スル為メ二个ノ例ヲ舉  
 ケントス

不動産引當ノ紙幣

地家屋等ヲ有スル者其土地家屋等ヲ引當ト  
 シテ一萬フランクヲ借ントスル時ハバンクニ  
 来リテ其土地又ハ家屋ノ證券書入質ヲ為スニ  
 付テノ目錄書民法ニ定土地ノ坪數及ヒ歲入ヲ  
 記シタル書地稅目錄等ヲ差出シバンクノ方ニ  
 於其不動産少クモ二萬フランクノ價ヲ付ト思  
 フ時ハ公證人ヲシテ其不動産ヲ書入質ト為ス  
 ノ證文ヲ認メシメ又書入質役所ノ帳面ニモ其



旨ヲ記入シ其外総テ通常土地家屋書入質ニテ  
金ヲ借ル時ノ手續ヲ為シ然ル上ニテハバンクニ  
テ一萬フランクノ紙幣ヲ造リ借主ノ二萬フラ  
ンクノ不産物ヲ引當ト為シテ一萬フランクノ  
紙幣ヲ借主ニ渡ス可シ  
後日借主其一萬フランクノ借債ヲ返却セハ其  
紙幣最早無用ノモノトナルカ故ニ直ニ其紙幣  
滅盡ス可シ

### 動産引當ノ紙幣

動産引當トシテ一萬フランクノ高ニ借ントス  
ル者アラハ先ツバンクニ來リテ其動産ノ真正  
ナル證書ヲ差出シバンクニテ一ケ年又ハ數ケ  
年ノ相場ニ從テ其動産ノ價ヲ科リ借主ノ差出  
シタル證書ヲ引當トナシ一萬フランクノ紙幣  
ヲ造リテ此ヲ貸スマシ  
後日借主其借債ヲ返却セハバンクニテ一萬フ



ラニクノ紙幣ヲ減盡スヘシ  
又動産ヲ引當ト為シテ金ヲ借ント欲スル者ハ  
金銀財金剛石商品等ヲ引當トシテバンクニ收  
マルヲ得ヘシ

此新法ハバンクニテハ如何ナル人ニモ金ヲ貸ス  
ヲ得可ク假令ハ一府一國ニモ金ヲ貸シ又從  
來ノバンクト異ナリテ農民ニ金ヲ貸ストモ其  
金ヲ失フノ恐ナシ試ニ其法ヲ云ハバ一農夫

千フランシクノ金ヲ借ント欲スル時先ツ倉庫中  
ニ貯ヘタル米麥ヲ引當品ト為ス旨又バンクニ  
掛合ヒバンクニテ數年間ノ其價ノ中數ヲ秤リ  
テ千フランシクノ價アラハ直ニ千フランシクノ紙  
幣ヲ貸ス可キカ如シ  
バンクニテ金ヲ貸スノ法方並ニ紙幣引當品ノ  
事ヲ説キケル上ニテバンクノ取立方ヲ説キ並  
ニ其紙幣ノ持主之ヲ金銀貨幣ニ引替ント欲ス



ハ直ニ其引替ヲ為スクメ別設備ユルバンク  
ノ財本ノ事ヲ説カントス

バンクノ取立方並ニバンクノ財本

バンクノ取立方ト其財本トハ互ニ相連結シメ

事ニシテ今此二事ヲ共ニ論セントス

バンクノ取立方ハ極メテ簡便ナリバンクニ財

本ヲ出合ハスル者ハ相當ノ利得ノ分派ヲ得ル

為メナルヲ以テ其基定マテハバンクヲ設クル

時ヨリ直ニ紙幣引替ノ為メハ財本ヲ得ハシ既

ニ從來正直固實名ナル大家ノバンク數个相談

シテ新法バンクヲ設クル財本ヲ出合サントス

然ル上ハ先ツ取初廻章ヲ刺シ新聞紙ニ記入ス

ルカ如キ費用ヲ出シ遠地ニ在テ其新法バンク

ノ事ヲ取扱フ取次人ヲ定ムヘシ

又政府ニテ此新法バンクヲ設ケ其租稅官吏ヲ

以テ其バンクノ取次人トナサハ大ニ國ノ富ヲ



増シ利ヲ得ルカ故縱令人民ヨリ取立ル租税ノ  
高ヲ減スルトモ經濟ノ差支トナルヲナカルハ  
又政府ニテ利ヲ獲ルトハ暫ク差置キ國中ノ  
富ヲ増スル之第一ノ務ナレハ政府ニテ最初ニ  
此バンク取立ノ新法ヲ行フハキナリ蓋シ從來  
各國政府中ニテ資益アル工作製造等ヲ為シ能  
ハスニテ畢竟國ノ富ヲ増ス能ハサル者アルハ  
此レ皆利息ノ貴キニ過クハニ因ル然ルニ其以

府此新法ノバンクヲ設ケ紙幣ヲ發出スレハ其  
紙幣ニハ引當品アリテ恰モ無利ニテ金ヲ借ル  
カ如シ唯其費ハ纔カニ紙幣ニ印号ヲ附スル  
費用トバンク日ニノ諸雜費トニ過キサルヘシ  
バンクノ財本並ニバンク取立人及ヒ取次  
人ノ務  
バンクノ財本ヲ得ル法方左ノ如シ  
バンクノ取立人其取立ノ為メト紙幣金銀貸引



替ノ為メトノ目的ニテ人ヨリ出合金ヲ受取ル  
可シ

又バンクノ取次人モ其任セラレタル事務ノ輕  
重ニ准シ人ヨリ出合金ノ多少ヲ受取ルヘシ又  
其取次人ハバンクノ紙幣ヲ金銀貸ト引替ユヘ

試ニ伺フ此バンクヲ立ントスル者ハ損失ヲ  
受クルノ恐アリヤ答ヘテ曰ク若シ此バンクヲ

立ント欲シ財本ヲ出合スル者一人モナクシテ  
終ニ之ヲ立ルヲ能ハサレハ百フランク又ハ二  
百フランクニ過キサル些少ノ損失ヲ受ルノ恐  
ナキニ非ス然ルニ衆庶貧窮ヲ欲スルヨリモ寧  
ロ富豊ヲ欲スルハ此レ人情ナリ故ニ智識アリ  
テ國ヲ愛スル輩自カラ利ヲ得テ亦國益ヲ計ラ  
ント欲シ此新法ハシクカ如キ目論ニハ其財本  
出合スヘシ然ル時ハ其バンクヲ立ント欲ル



者ノ為メ少許タリトモ損失トナルノ恐ナカラ  
ニ今更ニ伺フ茲ニ一大國益ト私利トヲ生スヘ  
キ目論アリ然ルニ數万金ヲ蓄フル富者少許ノ  
錢ヲ失フヲ恐レテ其目論ヲ助ケサレハ之ヲ指  
シテ何等ノ人ト云フヘキヤ答ヘテ曰ク癡人ナ  
リト然ラハ即チ新法ハバンクヲ取立ニトスル者  
モ少許ノ錢ヲ失フヲ恐レテ躊躇スルヲ勿レ  
余此ノ如ク論辨スルト雖モ固ヨリ我新法ノバ

バンクヲ資益アリトセサル者ハ對ニ強テ我説ヲ  
主張セントスルニハ非ス唯我意ヲ表シ我論ノ  
正シキヲ示サンカ為メナリ

此バンクノ取次人ニ其取次ノ職務ヲ為シ始ム  
ル時ハ既ニバンクヲ創立シテ其業ヲ行フヲ以  
テ其取次人モ損失ヲ受ルノ恐ナカルハシ  
此新法バンクノ紙幣ハ衆庶ノ信スル所ニシテ  
且衆庶バンクノ規則ヲ知リテ自カラ其紙幣ノ



引當品ハ何等ノ物タルヤ檢視スルヲ得ヘク  
バンクドフランスニテ其窖中ニ貯フル引當品  
ヲ秘シテ衆人ニ示サザルトハ大ニ異ナリテ新  
法バンク紙幣ノ持主ハ其紙幣ノ引當品ハ即チ  
甲者ノ米麥ナリト欲又ハ乙者ノ田野ナリト歟  
直ニ之ヲ知り得ルヲ以テ其紙幣ヲ信據シ敢テ  
之ヲ疑フノ念ナケレハ其紙幣ヲ金銀貨幣ニ引  
替ント欲スルニ及ハサルヘシ之レ亦此紙幣ノ

一益ナリ

又其紙幣數百フランクノ價アルモノ而已ナル  
時ハ之ヲ引替ヘント欲スル者アルヘシト雖モ  
五フランク十フランク二十フランク二十五ワ  
ランク五十フランク等ノ如キ小紙幣ナレハ之  
ヲ引替ントスル者少ナカル可シ  
此新法バンクノ取立人及ニ其取次人ハ現ニ其  
出合セノ金高ヲバンクニ出スニ及ハズ唯バン



クノ紙幣ヲ金銀貨幣ニ引替ルヲ為スノミニ  
シテバンクノ利得ヲ以テ漸クニ其引替ヘタル  
金銀貨幣ノ償ニ充テ竟ニ其全數ノ償ヲ得タル  
上其己レニ得タル利得ノ高ヲバンクノ財本中  
ニ加ヘ之ヲ紙幣トノ引替ニ用ヒテ更ニ其利得  
ヲ増スヲ得ヘシ故ニバンクノ取立人ハ始メ  
ヨリシテ其費用多キヲテ且其費用次第ニ減  
レ竟ニハ全ク其費ナキニ至ル可シ

バンクヘノ預ケ金

バンクヘノ預ケ金次第ニ増スニ准シバンク財  
本ノ出合セ人ノ費次第ニ減スヘシ蓋シ従来ノ  
バンクニ金ヲ預クル者ハ其バンクノ分散ニ因  
リ終ニ全ク其預ケ金ヲ失フノ恐アルニ其得ル  
處ノ利ハ纔カニ二分又ハ二分五厘百ニ分ニ又ハ  
二半ヲ云フ  
過キサレトモ新法バンクニ金ヲ預クレハ少ク  
トモ六七分百ニ分  
六七ノ利ヲ得ルヲアルヘシ是レ其



預ケ金ニ付毎歳幾許ト定メタル利ヲ與フル  
 ナリ總テバンクノ得分中ニテ相當ノ一部ヲ與  
 フルニ因ル相當ノ一部トハ百錢ニ付一錢、四分一錢ノ  
 八分一錢ノ十二分ノ一等ノ如キ割合ヲ云フ  
 此新法バンクニ金ヲ預クル者ハ慥ナル引當ア  
 ル紙幣ト引替ヲ為スタメノミニ其預ケ金ヲ用  
 フルヲ知リ且大ナル利分ヲ得テ之ヲ失フノ  
 恐ナキニ因リ信據ニテ之ヲ預クル者ノ數次第  
 ニ増ス可シ

故ニバンクニ金ヲ預クル者ニ失フノ恐ナク  
 且大ナル利益ヲ得可キヲ以テ竟ニハ全國ノ金  
 銀貨幣此バンクニ集マルニ至ル可シ

バンクノ得分

此バンクニテハ貸金ノ利息ヲ失フヲナキカ故  
 ニ其得分大ナル可シ蓋シ其得分ハ紙幣ニ印号  
 ヲ附スル費用及ニ通常バンクノ諸雜費ヲ除キ  
 テ實利二分百ニ付  
 ニラ云フナリトス然ルニ其利息ノ高



極メテ少ナキカ故バンクヨリ金ヲ借リテ工業ヲ營マントスル者多ク國中ノ大起作ヲ始ムルノ基ヲ爲ス可キニ曰リ之カ爲メ國中ノ富歳ヲ歴スシテ十倍ニ從來ノ經濟法ニテハ企テ及フ可カラサル事ト雖モ我新法ニテハ容易ニ之ヲ行ヒ得ルニ至ルヘシ(貸金ノ二分ノ利息ハ追テ之ヲ減ス可シ)

### バンクノ損失

バンクヨリ金ヲ貸スニハ其二倍ノ質物ヲ取り置クヲ以テバンクノ爲メ損失ヲ生スルヲ可カル可シ

### 結言

此新法バンクヲ取立ル法方ハ簡便ニシテ衆人容易ニ之ヲ解ヌ可シ蓋シ其一益ハ些少ノ利息ニテ大金ヲ貸スル又一益ハ貸金ヲ失フノ恐ナキ事又一益ハバンクノ事業執行ノ法整備シタ



ル事ナリ○此バンクヲ取立ルニハ解シ難キノ  
計策ヲ行フニ及ハス又財本ヲ出合スル者ノ為  
メ疑念ヲ生セシムル紙幣發行ノ法ヲ用フルニ  
及ハス唯道理ニ協ヒ正直ノ意アルコトノミヲ以  
テ是レリトス

又此新法バンクヲ創立セハ他ノバンクニテ商  
人ノ證券ノ分割ヲ取りテ之ヲ金銀貨幣ニ引替  
ル所業ノ便利ヲ為ス可シ

### バンク支配ノ法

此バンクニテハバンクドフラニスニ於ケル如  
ク善ク其監督者ヲ擇ンテ手落ナキニ著意スヘ  
シ又其取次所ニ於テモバンクノ本局ノ如ク監  
督者ヲ置ク可シ

取次所ニテモ本局ノ規則ヲ模シ唯其都合ニ因  
リ少シク更改アルヲミナレハ別ニ本局ト分テ  
記スヘキ事ナシ



余此論ヲ為スニ付文面ノ拙ト高上ノ説ニ乏シ  
キトハ讀者幸ニ之恕スヘシ我意ハ唯新ナル經  
濟法ヲ人ニ知ラレメントスルニ在ルニ當時  
我佛蘭西國大ナル禍ヲ受ケタルハ是實ニ不幸  
ノ極ト云フヘシト雖モ亦我新ナル經濟法ヲ行  
フテ國ノ為メ其禍ヲ除キ福ヲ致スコトアラハ之  
我カ為ニハ大幸ト云フ可キナリ  
余此新法ノ工凡  
人タレハ現ニ此新  
法ヲ行フ時ニ當リ我特權  
ヲ有ス可シ

千八百七十一年第六月十八日佛國ナント府  
ニ於テ

ナント府カール街二十三番

ゼ、バイヤール誌

大政官



大正官


二